



2017.10.22 バザー

「神様の元へ旅だった兄弟姉妹を想う月」

助任司祭 ジョセフ・アルバート

私たちはカトリック教徒として、十一月に入ると頭にまず思い浮かぶことは何と云っても死者の月、この世を去って神に召された人々についてのいい思い出ではないでしょうか。一緒に生活したこととか、一緒に過ごした楽しい時間とか、一緒に笑ったこと、一緒に泣いたこと、世話をしてもらったこととか、困っていた時に助けてもらったことなどいろいろ思い出が出てくると思います。同時に、好きだった人、一番大事にしていた人がこの世を去って、私達を悲しみに満ちたして逝ってしまうといういろいろな疑問も頭に浮かんでくるでしょう。本当に神様がいらっしやったら、どうしてこんなことが起こるのか？人は死んだらどうなるのか？死ぬと人はどこに行くのか？霊的世界という天国が本当に存在しているのか？という問いは、みんな一回は聞いたことがあるのではないのでしょうか。それは親しい人との別れは、誰にとっても悲しいことだからです。このような問いに100%の答えか、回心的な答えを与えてもらえるわけではないと思います。私たちがカトリック教徒として信じているのは、キリストを信じる者にとって死が人生の終わりではなく、新しい人生の始まりであって、目的である天国へ、神様の元への旅立ちであることを信じているから、人間的悲しみはもちろんありますし、むしろあって当然なことですが、悲しみの中にも絶望ではなく希望を持つことができるのです。

キリストが次のように教えられたことを思い出しましょう。『わたしは復活であり、いのちである。わたしを信じる者はたとえ死んでも生きる』と。死後、死者の霊は神のもとに帰っていくわけです。もちろん、みんないつの日か必ずこの世を去らなければなりません。でも、私たちは肉体の死によって滅んでしまうわけではありません。滅んでしまうのはただ肉体だけです。魂とい

平日のミサ時刻：

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
第3土曜日 午前10時30分 子供のミサ(マリア館)
火曜日 午後7時
金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時

主日のミサ時刻：

土曜日 午後5時 (ミサ後、聖体礼拝)
日曜日 午前8時・9時30分・午後6時
Sunday Mass in English 9:30 am
(in the Marian Hall)
ベトナム語のミサ 第4日曜日 午後3時30分

うのは肉体に宿っており、死後は、その魂が肉体から離れて、神様の元へ旅立って行くわけです。マタイ福音書22章21

節で「神のものは神に返しなさい」と書かれてあるように、神に与えられた私たちのこの命は神に帰っていくわけです。キリスト教においては、人が死後神のみもとに帰り、永遠のいのちにあずかるということなのです。私たちカトリック教徒は、地上で生きている人々との関係だけではなく死者との深い関係を感じますので、地上の忠実な私達の祈りを通して、煉獄にいる死者たちが彼らの罪が清められ、天国に入ることができると信じています。キリスト教の初期の時代から教会は、死者の記念をして、死者のための祈願をもささげてきました。死者のための私たちの祈りは、死者を助けるだけではなく、死者がわたしたちのために執り成すこともできるので、それだけの家族で亡くなられた方々のため、また亡くなられた親戚、友人、知り合いなどのためにもお祈りをささげましょう。

典礼一口メモ
第三回 聖堂の話
典礼委員長 新内飛鳥

教会は私たちが礼拝をささげる聖堂について、ローマ・ミサ典礼の総則において5章で「感謝の祭儀をささげるための教会堂の配置と装飾」として様々な取り決めを伝えていきます。基礎となる一般原則をごくごく一部ですが紹介しましょう。

一 一般原則

258 感謝の祭儀をささげるために、神の民は教会堂に集まる。教会堂がないか十分な広さがない場合、この偉大な神秘にふさわしい場所に集まる。それゆえ、教会堂あるいはそれに代わる場所は、祭儀を行うため、また、信者の行動的参加を得るために適したものでなければならぬ。さらに、聖堂および礼拝に関連する事物は、真にふさわしく、美しく、天上のことがらのしるしであり、シンボルとならなければならない。

と、以降に、建物が祝別されていることだとか、内陣の配置のことだとか、使われる道具やその材

料のことなど、きめ細やかに守るべき事柄や許される裁量について記されています。私たちの典礼はこの総則とルブリカに従って奉げられます。私たちの習慣や伝統は何を隠そう自然にそうなった訳ではなく神聖を保ち高めるために多くの先人達が築き上げてきた定めに従っているのです。もちろん人間一人一人の細かな行動まで決められるわけでもなく私たちのモラルなどに委ねられている部分もあるわけですが、それゆえに我々は慎重になるべき側面があります。

ちなみにルブリカとは、ミサ典礼書（ミサで使っている赤い大きな本）のことでミッサールとも呼ばれます。の書き込みのことで、主に会衆を含めた奉仕者の仕草や動作についての指示や注釈です。※芝居の台本のト書きのようなものです。どれほどに荘厳で素晴らしき聖堂であっても、そこに集まる私たちの心がげや行いによつては、それを台無しにしてしまうことがあります。私たちはそのことを自覚し、度々、繰り返し心に刻みなおすことを奨めます。

聖堂が特別な空間であることは以前もお伝えしたことがあります。が、新しい兄弟姉妹が増えたこと

もあり、改めましてお話しします。「人はパンだけで生きるものではない」という有名な御言葉があります。意味が解らなくても言葉だけなら信者ではない人も知っています。この有名な聖句を私たちはどう深く心に刻んでいるのでしょうか……パンに象徴されるのは、食べ物はもとより豊かさや物質的な価値などです。ままならない日常生活を送っていると、ついついパンの誘惑に傾いてしまうのではないのでしょうか。修道生活に奉獻している兄弟姉妹には心苦しい面もありますが、私たち人間は弱さがありますから精神を律し続けて生きることが困難です。折々に触れ御言葉や、神・イエス・聖霊の技を象徴する芸術、人の心、そういったものに触れる中で影響を受けたり人間性を回復したりしてどうにか神の子として生きる努力を続けているのです。日常生活の中で年がら年中、正しくあり続けることは厳しいことでもあります。メリハリ、心の緩慢があっても自然なことだと思います。ただしながら気をつけたいのは、心の在り様を自然な弛緩に任せるのは好ましくないことだと思っております。私たちは日曜日ごとに教会に

集まりミサに参列します。仕事や生活の都合で毎週ミサに来ることが出来ないこともあります。また、居住場所の関係で南山教会には、たまにしか来られない人もいます。珍しいお客さんや久しぶりにあった人など、ミサが閉祭したらずぐにでも気持ち伝えたり声をかけた人は沢山います。ですが、ここは一つ堪えてください。まだ、聖堂の中にいることを自覚してわきまえてください。聖堂は日常生活の中にあつて非日常的な空間だからです。どこが非日常かというと、ここでは、神との対話、神への賛美、秘跡の執行、こういった実に神聖な事柄が扱われる空間なのです。神様の御用にするために特別に他の物(場所)とは区別する。だから聖別と言うのです。叙階の秘跡を受けた人は聖別された人です。私たち一般の信徒とは生き方も違います。聖なる役目のために区別された(取り分けられた)人だからです。彼らは私たちと同じ人間であつても聖なる人であり続けるために努力と苦勞を重ねています。同じように聖堂は多くの人が集まる場所だと言つてもシアターやホールではないのです。シアターであれば上演時間以外は、むしろ賑やかに過ごすことでしよう。ホールであれば何も気にせず、ざわざわ過ごすでしよう。しかし聖堂は違います。違わなくてはならないのです。何故ならそこは聖域なのです。ミサの前後に典札奉仕者の打ち合わせに熱が入り「どなたかが祈つていても」お構いなしに素の声でしゃべつてしまうことがあります。まるで工事現場の監督と大工さんが声を掛け合つているみたいです。これは配慮が足りないことです。打ち合わせをするなら香部屋を使いましょう。聖堂の2階部分、つまり聖歌隊席は天使たちの歌声がよく響くための工夫がしてあります。話し声もよく響いてしまふことは言わずもがなでしょう。ミサが終わると玄関が混んでいるから、なかなか外に出られません。つついとお喋りを始めてしまいます。いささか辛口ですが、私たちの共同体を愛するが故に敢えて書きます。これは私たちの気が緩んでいるからです。久しぶりにあつた人への心配りは聖堂の外へ出るまで我慢しましょう。わかってくれるはずですが、同じ主を賛美するために集まつたのだから。堂内にいる時は、自分の気持ちではなく神様を中心に考えましょう。沈黙と静寂を護るようにしてください。図書館では静かにできるのに、教会では出来ないですか？神の子らは皆優しいからお互いに嫌なことを言わないですよ。だから自分で気を付けないといけないのだと思います。優しさを受けたのなら神に感謝しましょう。沈黙のうちにあなたの心をお捧げしてください。ご復活祭や洗礼の恵みの直後に嬉しいから、ご降誕祭には普段飾っていない馬小屋が飾つてあつて記念写真が写した、様々な思いがあるでしょう。写真を撮つちやいけないとは思いません。僕も撮ります。しかし振る舞いには節度が必要です。観光地ではないのです。アイドルの撮影会みたいに盛り上がってしまうのは相応しくない振る舞いです。大きな喜びを堂内で表していけないとは思いません。事実、珍しい神父様が来てくれてお知らせの時間を使つてちよつとしたお話をしてくれる時などは、割れんばかりの拍手が起きることもあります。でも、それは特別な事だとわきまなければいけません。この辺りでも、それは特別な事だとわきまな責任があります。ミサが終わつた後、まるでコーヒーが無いだけでスタバのようにつるいでおす。その中には平日のミサに通うほど熱心な信者の方も、ちらほらいらつしやいます。それだけ聖堂に慣れ親しんでいるからなのでしようけれど明らかに誤つた振る舞いです。どれだけ通い詰め慣れ親しんでいても自分の家ではありません。神様は許してくださいませ。でも許されるからと言つて調子に乗つてはいけません。これは、特別に堅い話ではないのです。聖堂が特別に神聖な場所なのです。南山教会の大聖堂を神聖な空間として凜とした空気を作るのは共同体である私たち一人ひとりの振る舞いであり私たちはその責任を負つているのです。聖堂では沈黙と静寂に心がけましょう。心掛けるというより厳守しましょう。蛇足ですが、子供の声は別の話です。子供の声は祈りの妨げになる人がいれば、それはその人の集中力の問題です。小さな子を持つお母さん、安心してくださ。でも、子育ての中で神聖な場所なのだというのを教えてあげて下さいね。

司祭団より

11月5日

入門式・堅信式が行われます。隣人に対象の方がいらつしやいましたら励ましお声がけをお願いします。

報告・連絡事項

10月8日、10時45分〜1時間

松浦司教様のお話しの概要

司教様は、2015年3月に名古屋教区の司教として着座され、2016年1月に司教教書を発行された。これを基本として教区運営にあたってのこと。名古屋教区では、修道会の信徒と教区の信徒のそれぞれが独立運営を

している部分があるので、これを教区として一つにまとめていきたい。歴史を振り返れば、戦後の焼け野原からの立ち上げには、多くの修道会からの援助があり、教会を建てていただいたりした経緯もある。

10年ほど前から、教区司祭への生活費は、安定的に配布しており、来年度からすべての名古屋教区の小教区へそれぞれの事情に合

わせて生活費を支給していく。支給方法は、教区から修道会へ担当司祭分(南山は3名)をお渡しする。修道会へ渡す意味は、長い間、教区の運営にお世話になったお札の意味も含めている。修道会から南山小教区の担当司祭へ生活費を渡していくこととなる。これに伴い、南山小教区としては、ミ

サ献金、維持献金の合計の教区維持費11%の献金に加えて、司祭生活費納付金として約35%の献金(合計約46%)が必要となる。司教様は教区としての一歩を目指していきたいとの考えである。そしてそれぞれの小教区が身の丈に合った教会にするべく頑張つて欲しいとのエールを南山教会の私たちに送っていただいた。

10月8日、15時〜大規模補修プロジェクトの進捗

色々と修繕箇所はありますが、最優先すべきは大聖堂の天井の耐震の問題です。まずはその1点に議論を絞っていく方針です。

過去にも様々な案を出しまして協議をしておりますがなかなか前例が少ないのと、予算との兼ね合いを考慮すると実行できない状況

ではあります。最新の低予算の案としては金具での補強案がありますがまだ細かい協議がなされてお

りません。すべての大規模補修を考えると概算では、今後10年で1億5千万〜1億8千万ほどかかることを念頭に置く必要があります。

10月22日、バザー 生憎の台風の影響があり、風雨の中、マリア館だけでバザーを行った。皆さんの一致協力

で安全に楽しくバザーを行うことができました。狭いことと、台風の影響を考慮して、綿菓子、みたらし、焼きそば、チャーハンの販売は中止し、加藤さんの歌も割愛した。

配布資料「2017年度バザー実行委員会報告」に基づいて説明がありました。悪天候のため4店を中止しました。結果的には各食品関係売れ残りが少なく上手く行きました。

バザー委員会としてはいくつかの反省点がありました。皆様からは特段のご指摘などなく高い評価をいただきました。特にゴミ処理については、皆様に声掛けを行うご協力いただきました。ありがとうございます。なお、本献金は、銀行口座(定期)へ納めました。

この献金活動は、個別に強力に

お願いした点もありましたので、皆様にはご不快の点があったかと思ひます。大規模補修への費用対応のためとはいえ、失礼があつたと思ひます。集め方に賛否があるかもしれませんが、今後の献金活動には留意を払ってまいりませう。専用口座を用意して積み立てていきます。

11月5日、納骨堂追悼ミサ

当日15時より追悼ミサを行います。併せてヨセフ館納骨堂のオーブンハウスも実施いたします。

ヨセフ会、マリア会、典礼委員会の皆さん、よろしくご協力をお願いいたします。

時間がありましたら是非オープンハウスに足を運んでください。

15時から行われた追悼ミサの参加人員は、年々増加し、聖堂がほとんど満席となった。遠くは、熊本からの参加があり、このヨセフ館納骨堂への要求はますます増大するものと思われませう。

11月26日、城東ブロック会議

膳棚教会にて行われますので、また次回ご報告いたします。

2018年「3・11折りの集い」実行委員募集の件

教区・社会福音化推進部よりの

お知らせ、実行委員の公募です。南山教会の教会美化やわだち祭りなどとのバッティングに気を付けて来年度の予定を決める必要がありませう。

その他
12月は、クリスマスがありませう。各会、今ぐらゐから準備を始めていただくとスムーズな準備ができると思ひませう。

録から
宣教司牧評議会が10月1日に開催されました。その中でそれぞれの小教区の会議名称はどうなつて

審議・相談事項

2018年度の①予算と②献金増額案について

既に2018年度仮予算案はできていますが、教区への献金の増額対応と大規模補修への準備を検討が必要だと思ひませう。

① 次年度の本予算立案のための各団体の予算案を財務へ提出して

② 維持献金の袋の中に袋を2つ用意し、維持献金用と大規模補修のための献金用とする。

(献金目標を決めた) 献金箱を用意し、聖堂の玄関に置く。

それぞれ委員会・団体の予算を見直す。

チャリティコンサートを立案する。

ミニバザーを行う。

ただし、献金はあくまで、その本人の意思による。

今回は、維持献金の袋の中にも一つ大規模補修積立金という袋を入れ、その中に献金を行う。これと並行して、大規模補修積立献金箱を聖堂に設置し献金を行つていただくものとします。両者とも自由意思で行うものとします。

準備でき次第、テスト的にこの方法を行つてみようと思ひませう。

最初から完全な方法は確立できません。ですので、実行しながら修正していくことが良い形につながると思ひませう。いろんなことを試すべきだと思ひませう。

良い提案などありましたらご提案ください。

結論として、①案②案について、建物の維持献金のためとわかるようにして、袋と献金箱の準備を進めて準備ができ次第実行いたします。

バザーの収益、使途、今後のバザーについて

今年度は、特別な状況で、バザーを実施しました。この経験が今後につながると思ひませう。今回の反省、と提案を報告いただき、お互いにその内容の把握をして、

次年度以降の糧にしていきたいと思えます。

来年度以降は、バザーの目的・在り方と規模等について、来期のバザー実行委員会に情報を上手く引き継ぎ協議する旨が決定されました。

聖水の取り換えについて

11月からヨセフ会が聖水交換に参加します。進め方についての相談は？

聖水交換の新規支援者の募集についての参加呼びかけをどのようにしていきたいでしょうか？ 相談要です。

中高生保護者会の今後の活動

今後の活動の進め方についての相談があります。

今年14年目になります。だんだんと参加者が減っておりまして、去年に引き続き同じ役員で行っております。

来年度の役員や活動についてメンバーにメールで問い合わせても後継者が立たない状況です。予算も使う予定は無いということもあり、中高生保護者会を休止したいと考えている。今後は中高生会の保護者の連絡網という形での存続になる予定です。

運営委員会としては、次回以降式ランブを新調しました。

運営委員会の場で休止に向けた具

次回は12月3日

体案を改めてご提案いただき。来年度も問題なく教会運営が行えることを目的に次回以降協議いたします。

ネットワークミーティング in 北陸

カトリック青年連絡協議会後援で、富山で開催 百名募集 南山から現在1名が参加希望です。

参加費と旅費の支援要否の審議の結果、承認されました。

その他

大規模修繕寄付金の為の普通預金口座の開設が承認された。

各会報告

典礼奉仕者の会

11月12日(日) 9時30分ミサで教会学校と中高生会と一緒に奉仕してください。

典礼委員会

9月30日(土) 10月度定例会議
10月8日(日) 松浦司教様ミサ
9日(月) 教区典礼研修会
11月12日(日) 11月度定例会議
七五三

26日(日) 入門式・日英合同ミサ

大聖堂内陣大ろうそくのオイル

ヨセフ館納骨堂追悼ミサについて

納骨堂管理委員会 泉 亨

ヨセフ館納骨堂収蔵者への追悼ミサが、2017年11月5日15時より新立主任司祭の司式にて捧げられました。

今年で4回目となり年を追って納骨される方が増えていくのに伴い、今年の会衆は250名ほどになったと思います。来年は聖堂満席になるのではないかと余計な心配の念を抱いたほどでした。

カトリック南山教会6代目主任司祭で5月に帰天された七種師の納骨式が、同時に多治見修道院で行われるという記憶に残るエピソードが新立師の説教の中で行われました。

使者の月である11月の第一日曜日に追悼ミサが行われることが多くの方に浸透されつつあり、今年もこの日に合わせて遠く九州や北海道から出席された方も幾組か見受けられました。

また、当日は10時から17時までヨセフ館納骨堂オープンハウスを

行い、午後を中心に多数の方に来館いただきました。

いつもこの追悼ミサにご協力いただいております典礼委員会の皆様、ヨセフ会の皆様、どうもありがとうございました。

来年はミサの内容を主日のミサではなく、11月2日の死者の日の内容で行うことを納骨堂管理委員会で検討していきます。



2017.11.5 ヨセフ館納骨堂追悼ミサ



バザー実行委員会だより

バザー実行委員長 酒井 良雄

台風の影響でお足元の悪い中、
沢山のご来場ありがとうございます。
おかげさまで事故もなく、
無事終了できました。バザー実行
委員会一同深く感謝いたします。

マリア会及びヨセフ会の皆様、
急な変更にも関わらず、献身的な
お働きにも深く感謝します。

まだ最終的な清算が済んでいま
せんで、概算ですが売り上げは
約70万円程、収益は約60万円
程となる見込みです。最終的な会
計報告は12月となります。ご協
力ありがとうございました。

皆様にお願ひしました「ゴミ減量
に挑戦」ですが、沢山の方がゴミ
をお持ち帰り頂き、なんと今回初
めてバザー終了後全てのゴミが処
理できました。皆様のご協力の賜
物と感謝しています。

今回のバザーは台風の影響で、
初めてマリア館内だけの開催とな
りましたが、お楽しみ頂けました
でしょうか？

設備・スペース等の問題で出店
中止とせざるを得なかったマリア
会7班の「みたらし」・青年会の
「焼きそば」・楊神父様の「楊飯

店特製チャーハン」・教会学校の
「綿菓子」の関係者の皆さん、深
くお詫びします。

皆さんのお楽しみだった楊神父
様の「楊飯店特製チャーハン」で
すが、材料の計量の都合があり、
ここだけの話ですが実は私は試食
をさせて頂きましたが、そのお味
は「ヒミツ」です。楊神父様ま
た何かの機会に作ってください。

この「バザー委員会だより」は
今回で最終となります。初めての
試みでしたが、いかがでしたか
でしょうか。短い間でしたがご愛読
ありがとうございました。



南山句会

平成二十九年十月十一日



掛軸を紅葉に替えて清し朝
彼岸花朝の散歩に赤白と

とく子

名月や雲と旅する果ての世へ
彼岸花はみずはなみず花は然ゆ

一藤

天高し社の杜の泣き相撲
号砲の轟く山の運動会

豊子

香り立つ小菊で飾る古机
雨やんで空を自在に鱗雲

令子

吾亦紅枯れゆく様に我も亦

牧子

萩揺らし弥撒へと急ぐ神父さま
曾孫の仕種愛らし酔芙蓉

せつ子

杜暗しびくりと動く鹿の耳
幾重にも服着せられて案山子かな

眞喜子

毎月第二水曜日午後一時半
マリア館二階集会室

信者の消息

受洗

おめでとうございます

10/7 ペトロ 玉田 聖
10/17 マリア 奥 節子

教会維持費

10月は1,555,273円の維持費が納められました。有難うございました。

教会の維持・運営・宣教活動は、教会信者全員が毎月納める維持費によってまかなわれますので、よろしくお願いします。

帰天

神の栄光にあずかれますように

10/16 マリア レティツィア 本告 昭子 (89歳)
10/26 マリア マルタ 大塚 初枝 (91歳)

2017年11月・12月行事予定表

	教会典礼歴	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
11月	死者の月 1(水)諸聖人の祭日 2(木)死者の日 9(木)ラテラン教会の献堂 26(日)王であるキリスト	5(日)予算審議開始 5(日)15:00追悼ミサ(大聖堂) 12(日)子どものミサ(七五三) 26(日)9:30天使ミサ・入門式・日英合同ミサ	5(日)11:00 運営委員会 10(金)マリア会遠足 11(土)要約筆記付きミサ 12(日)教会学校七五三 12(日)典礼委員会 12(日)ヨセフ会班長会 18(土)10:30子ども部屋	5(日)東八事第二墓地合同追悼ミサ 19日～26日聖書週間 19日貧しい人のための世界祈願日 26(日)城東ブロック会議(恵方町)
12月	3(日)待降節第一主日(B年) 8(金)無原罪の聖マリア 25(金)主の降誕 31(日)聖家族	9(土)10(日)共同回心式 24(日)主の降誕の前夜ミサ16:00,20:00(日英合同),24:00 21:30クリスマスパーティー 25(月)主の降誕ミサ(7:00;10:00;19:00) 31(日)23:00旧年感謝ミサ・新年の祝福	1(金)マリア会例会(懇談会) 3(日)11:00 運営委員会 9(土)子ども部屋クリスマス会 10(日)典礼委員会 (日)ヨセフ会班長会 17(日)教会学校クリスマス会 17(日)中高生会終業式 23(土)要約筆記付きミサ	3(日)宣教地召命促進の日(献金)